



／ ひろがる つながる ／

くりはら 移住 定住 コンシェルジュ

～ あなたのふるさと探しをサポートします。～

栗原市では、地方暮らしを検討している方を積極的にサポートする意思のある方々を「くりはら移住定住コンシェルジュ」として認定しています。今号では、コンシェルジュの概要と、6月28日に開催した第3回移住者交流会の様相を紹介します。

住まいや仕事の情報、地域とのつながりをサポート

コンシェルジュの皆さんは、行政が行っている移住定住の取組みに賛同してくれる方々で、一緒になって住まいや仕事などの情報提供や、地域とのつながりをサポートしていただきます。

今回委嘱したのは、個人9名、ご夫婦5組10人及び2団体の皆さんで、実際に栗原に移住されて、カフェを経営したり、トマトハウス経営、画家、スパイスアーティスト、陶芸家など、様々なジャンルで活躍されている皆さんです。

また、市内在住者のほかに都内及び仙台在住の方もおり、栗原の魅力発信など、お試し移住などへのステップを後押ししていただきます。

いろんな立場の人が楽しみながら栗原の良さを発信

コンシェルジュの皆さんは、いずれも「栗原愛」に満ち溢れた方々です。ここで暮らす決断をされた先輩移住者や、ずっとここで暮らし続けてきた地域の方々との出会い・語らいの中から、これまでなんとなく漠然としていた自分自身や家族の「ふるさとと呼べる場所」が見えてくると思っています。

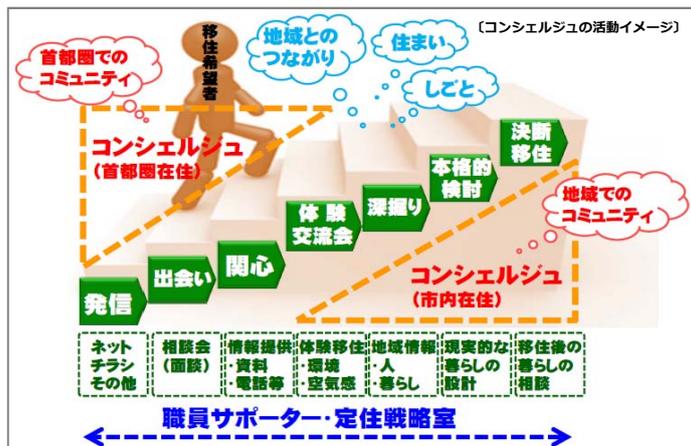
くりはら移住定住コンシェルジュは次の皆さんです。（敬称略）

【首都圏・仙台在住】

- ▽加藤静江（都内・会社経営）
- ▽松尾美幸（都内・大学職員）
- ▽大峯由美子（仙台・クリエイティブプランナー）

【市内在住】

- ▽中嶋美恵子（行政区長）
- ▽佐々木徳吉（花山ネットワーク）
- ▽山本直子（ピアニスト）
- ▽杉浦風ノ介（カフェ経営）
- ▽須藤雅樹（会社員）
- ▽小野寺吉生（トマトハウス経営）
- ▽工藤修二・幸子（陶芸家）
- ▽杉本豊・久美子（カフェ経営）
- ▽阿部幹司・幸子（会社経営）
- ▽渡辺信雄・生子（シャベツ店経営）
- ▽三浦貴生・真理（画家・スパイスアーティスト）
- ▽会席料理 丸勝
- ▽（一社）くりはらツーリズムネットワーク



第3回 栗原移住者交流会

突撃

この繋がりをこれからもっと広げていきたい

参加者 インタビュー

移住者交流会というものがあると聞き、「楽しそう！」という気持ちだけで参加しました。会場に入ると想像以上にたくさんの方がいて、自分と同世代の方が参加していることにも驚きました。

緊張していた私にも皆さん笑顔で声をかけてくださって、ご自身の栗原での暮らしや活動について教えてくれました。

話している皆さんの目がキラキラしていたのがとても印象的です。私自身、高校卒業まで18年間栗原に住んでいましたが、こんなに栗原想いのアツイ人がいっぱいいることや、移住者の方から見た栗原の魅力など、今まで知らなかったことに気づくことができました。今回できた繋がりをこれからもっと広げていき、皆さんと栗原での生活を楽しみたいです。



栗原市職員サポーター
築館総合支所 市民サービス課
大場 愛さん



日本昔ばなしの風景に出会えるまち 栗原。

元 NPO法人ふるさと回帰支援センター
みやぎ暮らし相談センター 相談員 **松尾 美幸 さん**



移住希望者の新たなサポート役として創設した「くりはら移住定住コンシェルジュ」の皆さんをシリーズで紹介します。

第1回目の今号では、東京都在住の松尾美幸さんをご紹介します。

6月に開催した移住者交流会において、ゲストスピーカーとしてお話いただいた内容を、交流会の様子が分かる写真とともにご覧ください。

『伊達なくらしセミナー』が 起爆剤へのきっかけ

私はNPO法人ふるさと回帰支援センターに今年の3月まで在籍しておりまして、栗原とのご縁ができました。実は3月いっぱい、もしかしたら栗原のサポートができなくなってしまうのではないかと覚悟していました。

4月になって、悶々とした日を過ごしていたんですけど、再びこのような形で栗原に来れたことに感動しています。

宮城県の相談ですが、栗原の動きから始まりました。どうしてかという、2017年3月に「伊達なくらしセミナー」を初めて栗原市がやってくれました。「伊達なくらし」ってちょっとおもしろいと思いませんか？

そこで移住した栗原での生活を阿部幸子さんがお話しくださり、すごい反響だったんです。さらに定期発行しているニュースレターなどの効果もあって、それからだんだんと栗原への関心が高まっていったんです。

NPOふるさと回帰支援センターの移住希望地ランキングで、宮城県が20位になりました。ランキングに漏れた他県の担当者から、どうして宮城県がこんなことになってんだ。何かやったのかって聞いてくるんです。とにかく方法を教えてほしいって。この起爆剤になったのが、栗原の動きだったんですね。

栗原に住んでみたいけど違う場所に移住する現実

栗原の動きってというのは、宮城県全体に影響を与えてくれるんですが、特に反応したのは40～50代だったんですね。宝島社が出版する「田舎暮らしの本」において、毎年、日本の住みたい田舎ベストランキングが公表されます。

この中の「小さな町4部門ランキング」で、県内で唯一、栗原市がランクインしました。具体的には、東北エリア総合部門2位、子育て世代が住みたい部門2位です。

全国総合部門では、なんと17位。子育て世代が住みたい田舎部門でも19位なんです。これで何が起きたかという、今度は若い人たちが栗原市ってどういう町ですかって来るようになったんです。

でも実際、栗原市に住んでみたいけれども、違う場所に移住しちゃったっていう方もいます。

あとから相談者から電話が来るんです。「松尾さんごめんね。違う所に移住しちゃった。」って。これ、どのぐらいの数だと思いますか？実は、36組もいたんです。この件数って、皆さんどう思いますか？

栗原独自のハイブリッドな制度構築が必要

わたしは残念に思ったんです。

栗原に住んでみたいけれども、違う場所に移住した理由、これは3つあります。働く場所が見つけない。住まいを見つけない。移住のための制度がない。この3つなんです。

働く場所が見つけない。ではどうしたらいいか。栗原独自のハイブリッドな制度構築が必要です。ここで大事なのは栗原オリジナルのものということです。それが看板になるからです。例えば、週2日勤務の企業と、週3日勤務の企業を組み合わせる。週1日勤務の店舗と週5日勤務の店舗。もしくは週2日勤務の企業と週3日の店舗でもいいと思うんです。

それに、栗原には季節限定のお仕事ってないでしょうか？これを活かしたいと思いませんか？こんな働き方を銀行や信用金庫、商工会議所、企業人事担当者と連携して行っていく必要があります。

空き家対策の民営化。生活感ある発信が必要

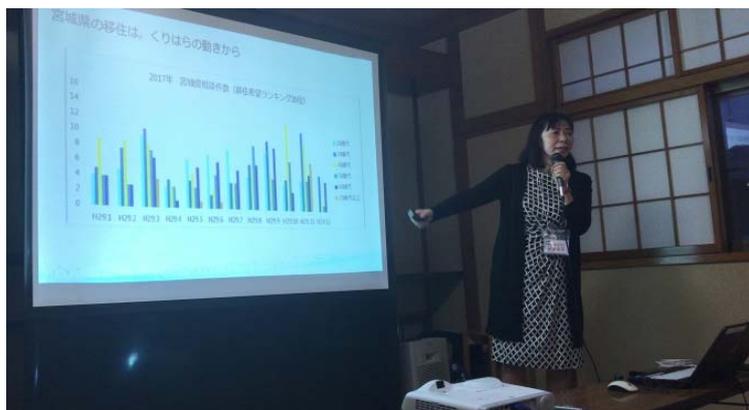
住まいも見つけない。栗原は県内で一番空き家の対策をしているんですね。登録物件数も多いんです。それでも見つけない。対応するためには、栗原市の職員が行っている空き家バンクのサポートを絶対民営化する必要があります。

例えば、空き家の発掘のサポート。空き家の管理も有料で行う必要があります。

現在ある空き家での生活をイメージさせた発信。生活感ある発信を住民の方々と行っていく必要があります。

移住のための制度がない。仕組みをつくっていくためには移住や定住に関わる財団や協議会が必要です。NPOでもいいと思います。これは宮城県自体にありません。

栗原の企業が直接、採用に関する情報提供をハローワークじゃなくて、こちらにも同時に提供してくれたらいいですね。



この仕組みを民営化すれば仕事になりますよね。それに、起業のサポートとして商工会議所との連携やバックアップも必要です。そして、新聞社、テレビ局、ラジオ局などのメディアの利用が少ない。非常に少ないです。

市内・首都圏、そして仙台のコンシェルジュが必要

栗原のファンを作ってほしいなと思うんですね。栗原サポータークラブ。そのためには、市内の協賛店舗が必要なので、そんな店舗をどんどん集めていく必要があります。

栗原の定住戦略室って、宮城県内でもトップクラスの職員なんて本当に動きも早いんですね。そして地域おこし協力隊の人たちもすばらしいと思います。ここをサポートしないとイケないんです。

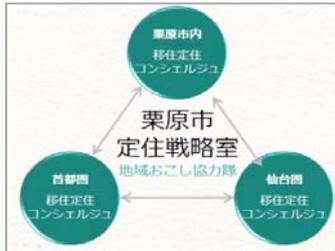
どうするか。市内の移住定住コンシェルジュと首都圏の移住定住コンシェルジュ。そう、私たちです。そして、もう一つの存在。仙台圏の移住定住コンシェルジュが必要です。この3つが必要なんです。

本当に人が入るとしたら、この仙台圏から人が来ます。狙いはここなんです。だからこそ仙台圏のコンシェルジュが絶対に必要なんです。この3つのトライアングルが構築できれば、今の問題も解決していくのかなって思います。

栗原の総合力が絶対大事なんです。単発では絶対無理です。絶対的に総合力が必要です。

栗原市にいざないましょう。いざなう必要があります。人が集うきっかけが必要です。

人を招くということが必要です。栗原の看板は何か？花山と六日町商店街。私はここしか案内していません。なぜか？それだけのポテンシャルがここにあるからです。



子どもたちの「郷土愛」の学びの機会が必要

そして学校です。小学校や中学校での「郷土愛」の学びの機会を提供することが大事です。なぜならば、栗原ってすごく伝統文化があるんですね。

そしてそこに人がいて、自然があって、これってすごいことだと思うんですけど、でも案外地元の人ってそれをよく分かってない、当たり前のことってよく分かっていないんですね。こういった提供もコンシェルジュが行っていく必要があるのかなって思っています。

首都圏に通う学生のサポート。直接移住には関わらないんですけど、相談員時代に結構、学生も相談に来ました。1年生の時はそうじゃなかったけど、3年生になったら都会の生活が辛くて辛くて仕方がないって。

でも親に反対して大学来ちゃったから、親に言えないんですって。そんな学生もすごく多かったですね。そういう学生へのサポートもしていく必要があるのかなって思います。



栗原がすごく好き。何かってやっぱり「人」が素晴らしい

そして、くりはらツーリズムネットワークさん。この皆さんは栗原の宝だと思います。この取組みを通して文化が継承されていく。それが大事だと思います。

わたしは、栗原がすごく好きなんです。宮城県で栗原ってすごくポテンシャルが高くて、すばらしいまちだと思うんです。やはり何かってこの栗原に生きる「人」なんですね。この「人」がやっぱり栗原は素晴らしいと思うんです。

そしてもう一つは「日本昔ばなしの風景に出会えるまち」なんです。私はやっぱりこれだと思うんです。日本昔ばなしの風景をずっと継承していくために何が必要かっていうと、地元で、栗原に住んでいる人たちが、絶対に動いていく必要があるんじゃないかなって思っています。

私は本当に微力なんですけど、これからも栗原を想う気持ちだけで動いてまいりますので、どうぞお力添えいただければと思います。

突撃

参加者 インタビュー



おおさき移住支援センター curus:くーらす
伊藤 竜太さん

「栗原が好き!」という一体感が伝わってきた

この度はお呼び頂きありがとうございました!おいしい地酒、お料理で大満足でした!栗原交流会に呼んで頂いて懐の深さに感謝です。

参加して感じた事は、受入れ側と移住者側の皆さんから出る言葉の一つ一つが前向きで、「栗原が好き!」という一体感が伝わってきました。

僕が栗原交流会に参加して思ったのは、『地域資源』、『生活の知恵』、『人との繋がり』が【あたたかい移住】に繋がるんだな!ということのを再認識しました。ありがとうございました。



縛りのない連携に向けて ～栗原市移住定住フォーラム開催～

7月9日、栗原市移住定住フォーラムを開催。市内外から約150人の方に参加していただきました。

講演では、やまなし暮らし支援センター倉田貴根さんから、移住相談窓口の現場に携わる中で、役所内の横断的な連携や地域連携・官民連携の実例を踏まえ、その必要性・重要性について投げかけられました。

パネルディスカッションでは、パネリストの皆さんから官民総働での情報発信の重要性を指摘する意見が出されました。

突撃

参加者 インタビュー



加美町地域おこし協力隊
加美町観光まちづくり協会
米津 岳さん

移住の後押しができる地域づくりに貢献したい。

移住して3カ月足らずの移住初心者である私にとって倉田さんのお話は当時の私の思いを代弁しているようでした。

私自身、移住先を決めたきっかけは、人に魅力を感じたことが大きな理由です。移住希望者は、様々な経験や考えを携え、自分自身の可能性を希望や期待、不安と照らし合わせて相談に伺います。

地域の皆さんと共に歩める安心をその時点で感じることができれば、初めの一步の小さな後押しができるのではないのでしょうか。移住コンシェルジュのような存在が、移住受入のできる前向きな地域づくりのキーになると思います。私も今回のお話を胸に、移住の後押しができる地域づくりに尽力したいと思います。貴重なお話をありがとうございました。



2018年 イベントスケジュール

8/3 金 開始 17:30 終了 20:00

8/3～5 地域おこし協力隊 トウイベント&専集説明会

【プログラム】

- 17:30～18:30 説明会
- 18:30～19:00 トウイベント
- 19:00～20:00 専集説明会

かがやく女性たちと過ごす **【要申込】**
8/3～5 花山いなか時間 2018夏

- 期間 8月3日(金)～5日(日)
- 会場 栗原市花山地区

▽花山地区の空気感や農業・食文化など、地方暮らしを体感できるお試し移住ツアーです。

8/3 (FRI) 第3回みやぎ移住フェア

- 時間 17:30～20:00【入場無料】
- 会場 有楽町:東京交通会館 8F

▽「地域おこし協力隊」をテーマに県内の7つの自治体が集合！お気軽にご参加ください。

かがやく女性たちと過ごす **【要申込】**
9/9 ふるさと帰郷フェア2018

- 時間 10:00～16:30【入場無料】
- 会場 東京国際フォーラム

▽全国47都道府県・約400の自治体が集合する日本最大級の地方移住イベント！

かがやく女性たちと過ごす **【要申込】**
10/6～8 花山いなか時間 2018秋

- 期間 10月6日(土)～8日(祝)
- 会場 栗原市花山地区

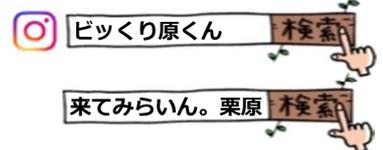
▽収穫作業体験・郷土の祭り(湖秋まつり)を体感できるお試し移住ツアー！(交通費補助あり)



イイとこどりで子育てしよう。栗原暮らし×都心利用

市では、「子育て」に関する総合特設サイトを開設し、子育て支援策のメニューや子育て環境などについて紹介しています。

また、市の子育て支援広報キャラクター「ピッキリ原くん」が栗原の風景や暮らしをInstagramで発信していますので、ぜひフォローしてください！



交通アクセス

【JR東北新幹線】

- 東京駅 → 仙台駅: 最短21分
- 仙台駅 → くりこま高原駅: 最短46分
- 東京駅 → くりこま高原駅: 最短1時間55分

【東北自動車道】

南北に2つのインターチェンジがあり、市外への移動もスムーズ

- 薬館IC→仙台まで約45分(60km)
- 若柳金成IC→盛岡まで約1時間25分(110km)

【レンタカー(くりこま高原駅)】

- 駅レンタカーくりこま高原営業所
- トヨタレンタリース宮城くりこま高原駅前店
- ニッポンレンタカーくりこま高原駅東口営業所

移相 談住 私たち、くりはら移住定住チームが **ご相談に対応します!!**

地方移住を考えている方が思い描く新たな生活が、より豊かなものになるように。相談会での出会いをきっかけに、継続的に相談対応・各種情報提供させていただきます。(鈴木・二階堂・松・阿部)



発行元 宮城県栗原市 企画部 定住戦略室
TEL 0228-22-1125
問い合わせ先 Email teijyusokushin@kuriharacity.jp